

# 特別支援学級 第1学年 算数科学習指導案

## 1 単元名 「たしざん」

## 2 指導観

- 本単元は、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算を理解し、それを用いることができることを主なねらいとしている。

具体的には①1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを理解すること、②1位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができること、③20までの数の構成や10に対する補数に着目して計算のしかたを考えることである。

ここで、既習の10の合成・分解や1位数どうしで繰り上がりがない場合の加法計算をもとにして、その計算の仕方を考えることは、十進位取り記数法の仕組みを理解していくことにつながり、2年生の2位数の加法の基礎となるという点で意義深い。

- 本学級の児童は、これまでに「いくつといくつ」において10を分解的にとらえたり、合成的にとらえたりする学習をしてきている。また「あわせていくつ ふえるといくつ」では和が10以内の加法計算の仕方を理解し、ほとんどの児童が用いることができるようになってきている。しかし、自分で考えをつくって、それを図や言葉に表現することは今回の学習が初めてである。

その中であって、S児は量感をしっかりととらえきれておらず、1から数えないと分からない状況にある。また和が10以内の加法計算では指を使って計算するが、途中でどこまで数えたのか分からなくなることが多い。しかし、○をかくとそれを数えて答えを求めることができる。一斉学習においては、一人で課題に取り組むことが難しく、個別での関わり方も配慮が必要である。

N児は、和が10以内の加法計算では、指を使っての数え足しからなかなか抜け出すことができている。それにより、他の児童と比べると計算に時間がかかる傾向にある。しかし、少しずつ念頭操作ができるようになってきた。

Y児は、学習の構えができにくく、思ったことをすぐに口に出してしまう。また、学習活動に集中して取り組めないことが多い。

- 本単元の指導にあたっては半具体物を使った算数的活動を通して、繰り上がりのある加法計算のしかたを考え、表現、交流することで、理解を深めさせていきたい。

導入においては、カードを使って既習内容と未習内容を整理し、「答えが10よりおおくなるたし算の計算の仕方」について学習するという単元のめあてを確かめ、単元学習についての学習の見通しと意欲をもてるようにする。

展開においては、まず被加数が7、加数が5の場合で繰り上がりのあるたし算の仕方について考え、10のまとまりをつくるブロック操作を通して、既習の10までの加法に着目すればよいことを見いだせるようにする。その後、被加数が9、8、7の場合も同様に学習を進め、加数分解による計算の仕方の定着を図る。第7時の被加数が3の場合の計算の仕方の学習では、第2・3時の10のまとまりのつくり方や第4・5・6時の小さい数を分解していたことを想起しながら、3を分けて10のまとまりをつくる被加数分解のよさに気づけるように学習を展開していきたい。

終末においては、計算カードを用いた活動を通して、1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算能力を高め、十分習熟を図る。

## 3 単元目標

- 数の構成や10に対する補数などの学習経験を生かして、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を進んで考える。
- 20までの数の構成や10に対する補数に着目して加法計算の仕方を考える。
- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができる。
- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解する。

4 指導計画（11時間）

配時	目 標	主な学習活動と内容	主な評価規準
1	○ 既習のたし算と繰り上がりのあるたし算の違いについて考え、単元のめあてをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算カードの仲間分けの活動を通して既習内容と未習内容の違いを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容と未習内容の違いを考えている。</li> </ul>
2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 被加数が7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。</li> <li>○ 被加数が7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算では、10のまとまりをつくれればよいことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面を読み取り、立式する。</li> <li>7 + 5の計算のしかたを考える。</li> <li>7 + 5の計算のしかたを交流する。</li> <li>10のまとまりをつくれればよいことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックを用いて繰り上がりのある加法計算の仕方を考えている。</li> <li>話し合いを通して、繰り上がりのある加法計算の仕方を考えている。</li> </ul>
4 本時	○ 被加数が9の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、加数分解で解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面を読み取り、立式する。</li> <li>9 + 4の計算のしかたを考える。</li> <li>加数分解による計算方法をまとめる。</li> <li>被加数が9の場合の計算に取り組み、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り上がりのあるたし算のしかたについて10のまとまりに着目して考えている。</li> <li>加数分解による計算ができる。</li> <li>加数分解による計算のしかたを理解している。</li> </ul>
5	○ 被加数が8, 7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、加数分解で解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数が8, 7の場合の計算のしかたを考える。</li> <li>加数分解による計算方法について理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加数分解による計算ができる。</li> <li>被加数が8, 7の場合でも10のまとまりをつくれればよいことを理解している。</li> </ul>
6	○ 被加数が9, 8, 7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算練習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加数分解による計算が確実にできる。</li> </ul>
7	○ 被加数が小さい場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、被加数分解のよさに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面を読み取り、立式する。</li> <li>3 + 9の計算のしかたを考える。</li> <li>被加数を分解して計算する方法についても理解する。</li> <li>計算練習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数, 加数の大小に着目しながら, 10のまとまりをつくることを考えている。</li> <li>被加数分解による計算のしかたを理解している。</li> </ul>
8	○ 1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算を加数分解・被加数分解で解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題を解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数, 加数の大小に着目しながら, 10のまとまりをつくることを考えている。</li> </ul>
9 10 11	○ 1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算カードを使っでの練習問題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。</li> </ul>

## 6 本時目標

- ブロックを用いた算数的活動を通して、被加数が9の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを考える。
- 被加数が9の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算を、加数分解で解決することができる。

## 7 本時指導の考え方

前時までに児童は被加数が7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方、10のまとまりをつくれればよいことを学習してきた。そこで本時では、10のまとまりをつくる考えをもとに、ブロックや図を用いた算数的活動を通して、被加数が9の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを考え、加数分解で解決することができることをねらいとしている。

そのために、まず「つかむ」段階では問題文を提示した後、「あわせて」からたしざん「 $9 + 4$ 」を立式させ、本時のめあてを確認する。その時に前時（ $7 + 5$ ）との同じところや違うところの気づきを発表させ、見通しにつなげるようにする。

「見通す」段階では前時に学習した $7 + 5$ を振り返り、繰り上がりのあるたし算は10のまとまりをつくらせて計算したことを確かめ、本時でも10のまとまりをつくれればよいことに気付かせ、確かな見通しをもてるようにする。また、前時で使ったブロックや図、言葉で説明していくことも確認する。

そして「つくる」段階では、10のまとまりをつくるという考えをもとにブロック操作や図への書き込みをさせる。ア) 4を分けて10のまとまりをつくる考え イ) 9を分けて10のまとまりをつくる考えが出てくると予想される。この時に数えたしをしている子がいれば、「10のまとまり」を意識してブロック操作をするよう個別に支援していく。そしてブロック操作をした後、自分の考えを図や言葉で表現し自分の考えを明らかにできるようにする。次に全体の場で(ア)(イ)の代表児がブロック操作をしながら発表する。この時、児童から(イ)の考えがでない場合は教師が(イ)の考えを提示し、なぜ(ア)の考えがいいのかを話し合うようにする。

最後に「まとめる」段階では、話し合ったことをもとに「大きい数9のほうで10のまとまりをつくらせて計算がはやい」というまとめをする。そして、チャレンジ問題をして、本時学習についてふりかえる。

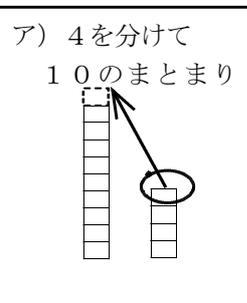
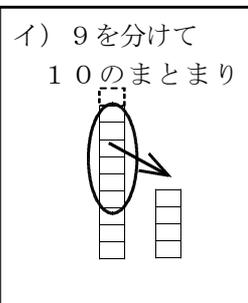
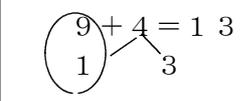
## (個への支援)

- ◎ 学習スケジュールボードを使って、今、学習のどの段階をしているのか分かるようにする。  
(主にS児・Y児) (資料④)
- ◎ みる・きく・はなす(いう)をしっかりと意識させるために、学習場面を評価していく。(資料④)  
(集中力が続かない児童への支援)
- ◎ S児への学習プリント (資料②)
  - ・ブロックの上に挿し絵をつける。
  - ・10のまとまり(1こ動かす)が作りやすいように、9の方にだけ補助線を入れる。
  - ・混乱しないように、言葉での表現は穴うめにする。
- ◎ N児への学習プリント(必要に応じて他の児童へも活用) (資料③)
  - ・10のまとまり(1こ動かす)が作りやすいように、9の方にだけ補助線を入れる。
  - ・言葉のかきだしを与えておく。
- ◎ S児の活動
  - ・ブロック操作→数タイル  
(T2とのやりとりを通して、「9はあと1で10」「10と3で13」と唱えながら、ブロックや数タイルを操作する。)
- ◎ ブロック図をつけたチャレンジ問題を用意しておき、様子を見ながら必要に応じて取り組ませる。  
(資料② うら)

8 準備

〔教師〕 ブロック (大) 数タイル 図 学習プリント 学習スケジュールボード  
 〔児童〕 ブロック

9 本時の展開

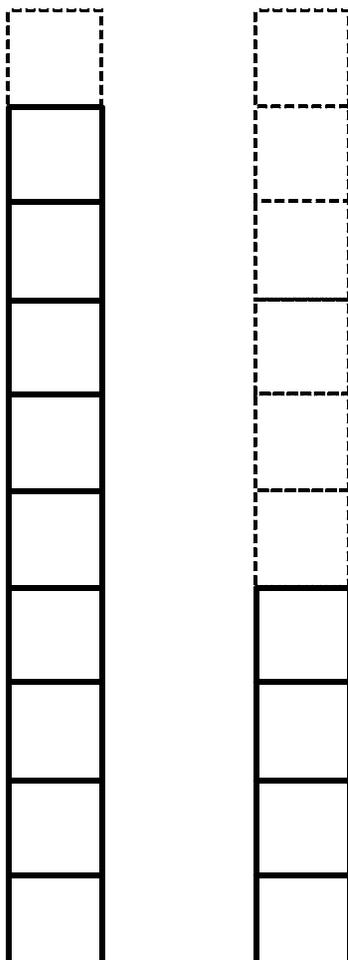
	学習活動と内容	指導上の留意点	個への支援
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。 (1) 問題を把握する。 〈問題〉 みきさんはどんぐりを9こ、たけしさんは4こひろいました。 あわせてなんこひろいましたか。 (2) めあてをつかむ。 〈めあて〉 9 + 4 のけいさんのしかたをかんがえよう。	○ 分かっていること，尋ねていることを確認し，問題を把握させる。 ○ 「あわせて」に着目させて，たし算の立式をさせる。 ○ 前時との違いや気づき（7から9に増えている・答えが10より大きくなりそう）を考えさせ，見通しにつなげる。	★ 学習スケジュールが分かるボードを用意しておく。 ★ 「みる・きく・はなす」を評価していく。
見通す	2 既習内容を想起し，解決の見通しを立てる。 ・10のまとまりをつくる。 ・ブロックをつかったらいい。 ・図をかく。 ・ことばでのせつめい 3 自分の考えをつくる。 (1) ブロックや図，言葉の説明を使って自分の考えをつくる。	○ 既習内容（7 + 5の計算の仕方）でしたことを想起させる。 ○ 既習内容（7 + 5の計算の仕方）の掲示物を準備しておく，図への書き込み方や言葉の説明の仕方を想起できるようにする。 ○ ブロック操作をした児童にも，操作したことを図に書き込ませる。 ○ 数え足しをしている児童がいたら，10のまとまりをつくるように促す。	★ 学習プリント（S児） ・言葉は穴うめにする。 ・10を意識できるように9の方にだけ補助線を入れる。 ★ 学習プリント（N児・他） ・言葉の書き出し ・10を意識できるように9の方にだけ補助線を入れる。 ★ T2とのやりとりを通して，10のまとまりを考えさせ，ブロック・数タイル操作をさせる。（S児） ★ 様子を見ながら個別に声をかける。（N児・他）
つくる	ア) 4を分けて 10のまとまり  イ) 9を分けて 10のまとまり 	○ 代表児童にブロック操作を發表させた後，もう一度，一斉にブロックを操作させる。 ○ イ) の考えがでない時は教師が出し，10のまとまりが作りやすいのはどちらか考えさせ，まとめにつながるにする。	★ T2とのやりとりを通して，10のまとまりを考えさせ，ブロック・数タイル操作をさせる。（S児）
まとめる	4 本時のまとめをする。 (1) めあてに対する答えをまとめる。 〈まとめ〉  大きいかず9のほうで10のまとまりをつくとけいさんがはやい。 (2) チャレンジ問題をし，本時学習についてふりかえる。	○ どう計算したのかが分かるように「さくらんぼ」でかくように声かけをする。	★ チャレンジ問題にもブロック図をつけ，タイル操作をしながら練習をさせる（S児） ★ つまづいている児童にはブロック図のついたチャレンジ問題を取り組ませる。

もんだい

みきさんは どんぐりを 9こ, たけしさんは 4こ ひろいました。  
あわせて なんこ ひろいましたか。

めあて の けいさんの しかたを かんがえよう。

く ず >



く ことばで せつめい >

しき

こたえ

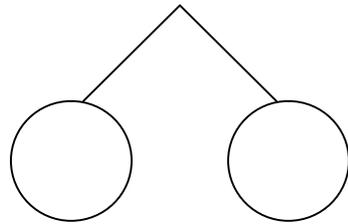
まとめ

9 + 4 =

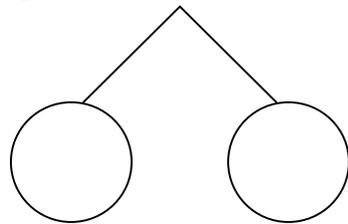


## ちやれんじ

(1)  $9 + 5 =$



(2)  $9 + 6 =$



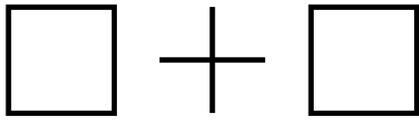
(3)  $9 + 7 =$

(4)  $9 + 8 =$

もんだい

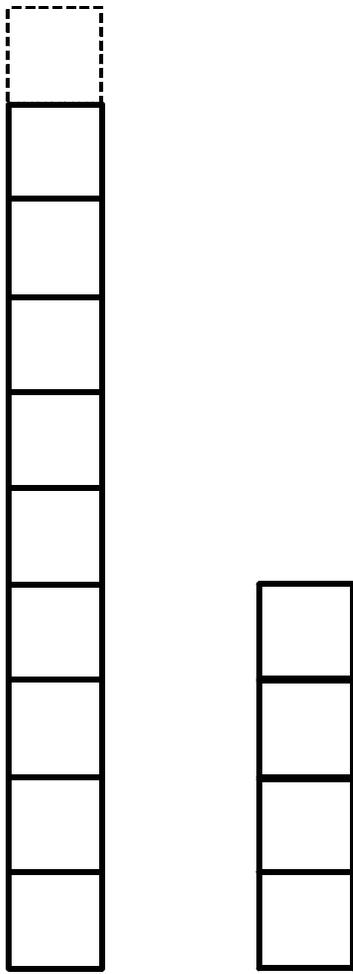
みきさんは どんぐりを 9こ、たけしさんは 4こ ひろいました。  
あわせて なんこ ひろいましたか。

めあて



の けいさんの しかたを かんがえよう。

〈ず〉



9は あと ( )で 10です。

しき

\_\_\_\_\_

こたえ

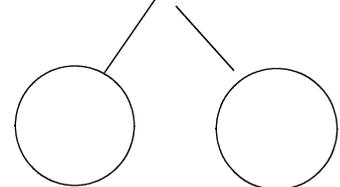
\_\_\_\_\_

まとめ

9は あと ( )で 10

$$9 + 4 =$$

( )と( )で( )







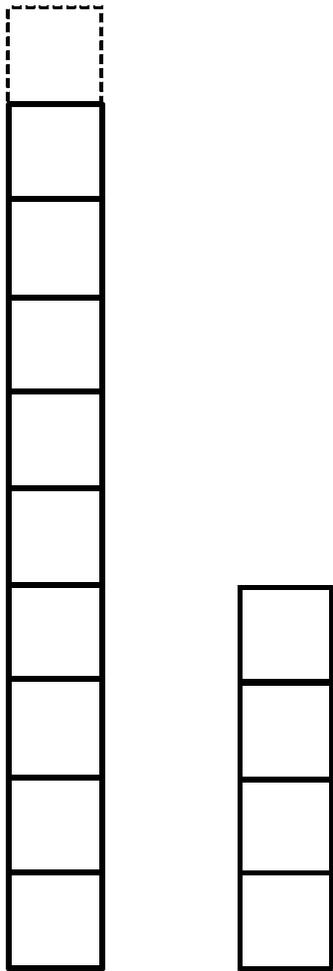


もんだい

みきさんは どんぐりを 9こ, たけしさんは 4こ ひろいました。  
あわせて なんこ ひろいましたか。

めあて の けいさんの しかたを かんがえよう。

〈 ず 〉



〈 ことばで せつめい 〉

① 9はあと

-----

② だから 4を

-----

③ そして

-----

④ さいごに

-----

⑤ こたえは

-----

しき

\_\_\_\_\_

こたえ

\_\_\_\_\_

まとめ

9 + 4 =

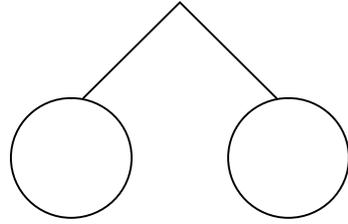
-----

-----

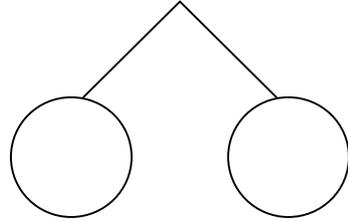


## ちやれんじ

(1)  $9 + 5 =$



(2)  $9 + 6 =$



(3)  $9 + 7 =$

(4)  $9 + 8 =$

みる・きく・はなす（いう）の手だて



学習スケジュールボード

